



## 海の中にも活断層？ -大阪湾断層帯-

2024年1月1日の石川県能登地方の地震(M7.6)から1年が経過しました。震度7を観測したこの地震は、浅いところで発生して海底が変動したため、強い揺れだけでなく津波も発生しました。この地震は海域活断層が関連した可能性が指摘されています。大阪湾にも「大阪湾断層帯」という同様の活断層帯があり、この断層帯により、石川県能登地方の地震とよく似た事象が引き起こされる可能性があります。そこで、今回の一口メモでは、大阪湾断層帯についてご紹介していきたいと思えます。

### ①「大阪湾断層帯」とは

大阪湾断層帯は、図1のように、神戸市沿岸から大阪湾を縦断して大阪湾南部へ向かって北東-南西方向に伸びる長さ約39kmの断層帯で、断層帯の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

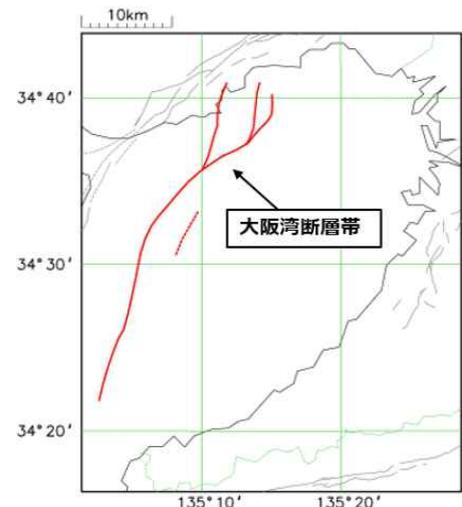


図1：地震調査研究推進本部による活断層の分布図

想定される地震の規模：M7.5程度  
地震発生可能性(ランク)：Zランク(※1)  
地震後経過率：0.4以下(※2)

(※1)地震発生可能性を表すランク

Sランク(高い)：30年以内の地震発生確率が3%以上

Aランク(やや高い)：30年以内の地震発生確率が0.1~3%

Zランク：30年以内の地震発生確率が0.1%未満

Xランク：地震発生確率が不明(過去の地震のデータが少ないため、確率の評価が困難)

Sランク、Aランク、Zランク、Xランクのいずれも、すぐに地震が起こることが否定できません。

(※2)地震後経過率は、地震が前回発生した時点から、次に発生する時点までの間で、今の時点がどの程度経過しているかという割合を示しています。地震が前回発生した時点から長期評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0になります。

### ②津波の高さの想定

内閣府は中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」の中で、「大阪湾断層帯」による地震が発生した場合の津波の高さを試算して公表しました。この試算によると、大阪府の沿岸では堺市から南において高いところで3~5mの津波が予想されています。

同会議の中では津波の到達予想時刻については具体的に触れていませんが、地震発生後短い時間で津波が到達することに留意すべきという意見が述べられています。

### 津波から命を守るには？

海の近くで強い揺れを感じたり、弱い揺れでも長くてゆっくりとした揺れを感じたり、津波警報等の発表を聞いたりした時には、海から離れ、高いところへ逃げると意識を持つことが大切です。

また、速やかに避難できるよう、避難経路を事前に確認しておくことも大切です。